



2026 年 9 月 17 日

各 位

会 社 名 大太平洋金属株式会社
代 表 者 代表取締役社長 岩館 一夫
(コード番号 5541 東証プライム市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 松山 輝信
(TEL 03-3201-6681)

大太平洋金属と東京大学、東京都の「GX 関連産業創出へ向けた早期社会実装化支援事業」に採択
～国産ニッケル・コバルト資源開発に向け、マンガンノジュールの製錬実証試験を開始～

大太平洋金属株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩館一夫、以下「大太平洋金属」）を
代表事業者とし、国立大学法人東京大学（東京都文京区、総長：藤井 輝夫、以下「東京大学」）を共
同申請者とする「国産ニッケル・コバルト資源開発と GX 関連産業創出」事業が、東京都の令和 8 年度
「GX 関連産業創出へ向けた早期社会実装化支援事業」に採択されましたのでお知らせいたします。

記

■ 採択事業の概要

事 業 名：国産ニッケル・コバルト資源開発と GX 関連産業創出
代表事業者：大太平洋金属株式会社
共同申請者：国立大学法人東京大学

■ 本事業の背景と目的

自動車等の電動化や再生可能エネルギーの利用拡大に伴い、リチウムイオン電池をはじめとする蓄電池の重要性が急速に高まっています。蓄電池産業は、脱炭素社会の実現および社会システムのグリーントランスフォーメーション（GX）を支えるキーテクノロジーであり、経済安全保障推進法に基づく「特定重要物資」にも指定されています。

その蓄電池の基幹材料であるコバルトやニッケルの安定確保は、我が国における極めて重要な社会課題です。日本の EEZ 内にある南鳥島沖の深海底に分布する海底鉱物資源「マンガンノジュール」は、コバルト、ニッケル、軽希土類元素などの希少金属を豊富に含んでいます。この国産資源の開発は、日本の GX 関連産業の安定的発展を強力に後押しする可能性を秘めています。

■ 今後の取り組み

本事業では、マンガンノジュールの製錬プロセスについて、2026 年度から 2029 年度までの 4 年間で、実機に近い規模の製錬設備を用いた実証試験を行います。試験にあたっては、2027 年度に共同申請者である東京大学が南鳥島沖で実施する大規模揚鉱試験によって引き揚げられたマンガンノジュールを使用します。この製錬実証が完了すれば、開発に必要な技術要素がすべて揃うこととなります。

これにより、資源開発の実現に向けた一気通貫の取り組みを加速させ、早期の社会実装化と国産資源の安定確保に大きく近づきます。日本国内および東京都内における新規鉱物資源開発を大きく前進させることで、ひいては世界初となる深海底鉱物資源開発の本格化へ向けて大きな弾みをつけることが期待されます。

【試験計画】

プロセス	2026 年度			2027 年度				2028 年度				2029 年度			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
荷役・貯鉱					→										
脱塩						→				→					
煅焼							→				→				
溶融還元			→					→				→			
マット化・酸化製錬													→	→	→
ダストリサイクル													→	→	

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

大太平洋金属株式会社

(TEL : 03-3201-6681、お問合せフォーム : <https://www.pacific-metals.co.jp/inquiry/>)